



松尾のアコウ(高知県土佐清水市)



第80期 事業レポート

平成22年11月1日 ▶ 平成23年10月31日

株式会社 **ミロク**

証券コード 7983



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第80期（平成22年11月1日から平成23年10月31日まで）の事業レポートをお届けいたします。

今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成24年1月
代表取締役社長 弥勒 美彦

当期のミロクグループの事業動向は？

東日本大震災が大きく影響しました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災の影響は甚大でした。自動車関連事業の生産ラインが稼働を停止し、それに伴い一時操業停止を余儀なくされた自動車関連事業の売上高は、前期比27.4%減と大きくダウンしました。しかしながら自動車関連事業では、さまざまなコスト削減に努め、利益面での落ち込みは最小限にとどめることができました。夏以降は生産ラインも稼働を始め、業績は徐々に回復し

ています。一方、受注数量の減少で非常に厳しいスタートを切った猟銃事業は、期中に追加オーダーを獲得しました。工作機械事業ではツール部門と加工部門が堅調に推移しました。

以上の結果、連結売上高は9,016百万円（前期比14.5%減）、経常利益は198百万円（前期比35.3%減）、当期純利益は81百万円（前期比65.1%減）となりました。

当期において力を注いだことは？

ニーズに応える製品づくりと原価低減に取り組みました。

グループ各社において、お客様の期待に応えられる製品づくりを目指すと同時に原価低減への取り組みに注力し、グループ一丸となって業績向上に努めました。

（株）ミロク製作所を中心とした猟銃事業は、円高の長期化によっ

て、ブローニング社の提示する価格面での条件が厳しさを増しました。その要望に応えつつ利益を確保するために、工程や作業のムダを徹底的に排除し、製作工数の最少化に取り組みました。当期中には材料外注費の削減、生産効

ハイライト情報 (連結)

率の改善など6つのプロジェクトをスタートさせ、損益分岐点を引き下げ厳しい条件下でも利益が出せる体質づくりを進行中です。

ミロク機械(株)が展開する工作機械事業では、中国やインド、東南アジアといった新興国マーケットへのアプローチに取り組みました。これまでの日系企業から現地企業へ事業のターゲットを拡大。まず、現地にガンドリルマシンを設置して請負加工をスタートさせ、消耗品であるツールの現地生産・販売へと事業を拡大していく計画の準備段階といえます。

(株)ミロクテクノウッドによる自動

車関連事業は、東日本大震災の影響を色濃く受けた一年でした。そのような厳しい環境下でも、木材の表面から薬剤を含浸させて強度を高めたステアリングホイールなど、新しい試みを取り入れた製品を生み出しています。7月には米国ミシガン州に純木製ステアリングハンドルの材料調達・販売および前工程の加工を手がけるMTW USA ((株)ミロクテクノウッドの100%子会社) を設立しました。作業量の平準化や効率的な人員活用などに意欲的に取り組み、順調な滑り出しを見せています。

来期の展望をお聞かせください。

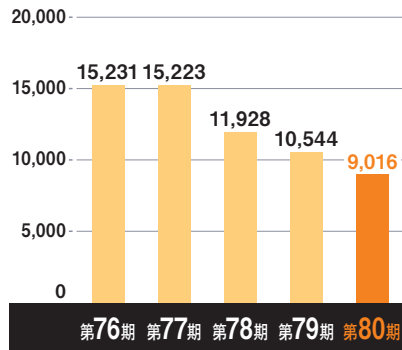
新たに「2012 中期経営計画」を策定、収益の回復と安定化に努めます。

円高の長期化、欧州金融不安の深刻化と世界経済への波及懸念など、来期(第81期)も当社グループを取り巻く状況は依然厳しいと予想されます。このような中、当社は「2011 中期経営計画」の目標計画数値についても見直し

が必要と判断。昨年12月、新たに「2012 中期経営計画」を策定しました。「品質第一をさらに押し進め、これまでに培ってきた他社に無い固有技術を応用・展開して収益を確実に上げると同時に、新たな技術を開発して新規事

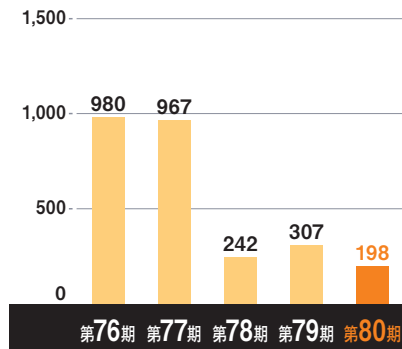
売上高

単位:百万円



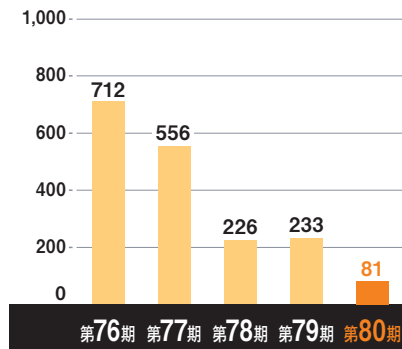
経常利益

単位:百万円



当期純利益

単位:百万円



業に結び付ける」ことを中長期的な基本方針と位置付け、収益の回復と安定化に努める所存です。

猟銃事業では、ブローニング社が並々ならぬ期待を寄せる上下二連銃（ショットガン）の新製品「CITORI（シトリ）725」をリリースする予定です。（⇒詳しくはP5をご覧ください）全体的な受注数量も当期に比べてかなり増加し、数量的には良い条件でスタートを切ることができました。ただし、為替レートの影響で、価格面の要求は厳しさを増しています。このような状況に対応するため、前述した6つのプロジェクトによる抜本的な原価低減に取り組み、価格競争力の確保を目指すほか、SCA（サプライチェーンアクティビティ）に基づいた生産拠点の効率化も推進しています。昨年11月に

行った(株)南国ミロクと(株)栲原ミロクの合併に続き、本年1月には香北工場の生産ラインを(株)南国ミロクの本社へ完全移転しました。これによって生産ラインの集約を図り、効率化を実現します。

工作機械事業では、安定した事業基盤を築くため、中国やインド、東南アジアなどの新興国をターゲットにした製品づくりに力を注ぎます。これらの市場をにらんだ戦略製品は、「品質と価格のバランス」に柔軟に対応して売上と利益の確保を図ることがポイントになります。そのため、海外メーカーへの委託生産も視野に入れて検討を進めます。

自動車関連事業では、お客様へ新しい製品を提案する能力が、生き残るための必須条件です。そのため、ス

テアリングハンドルという商圏は大切にしつつ、新機能・新素材の研究開発に力を注ぎます。その一環として、来期は竹を使ったステアリングハンドルをリリースする予定です。もちろん世界初の製品で、外観的にも触感的にも従来のクルミヤカエダとは趣の異なるものに仕上がっています。

来期の連結業績は、売上高11,000百万円（前期比22.0%増）、経常利益240百万円（前期比20.8%増）、当期純利益120百万円（前期比47.7%増）を見込んでいます。

株主の皆様へメッセージをお願いします。

3つの事業が補完し合う中、 新たな事業を模索します。

低迷する経済状況と予想を超えた円高の中で、連結売上高の半分を占める猟銃事業の置かれている環境は、極めて厳しくなっています。グループ一丸となって、できるかぎりの努力を積み重ね、生き残っていく覚悟です。猟銃、工作機械、自動車関連の3つの事業が補完的な関係で支え合うこ

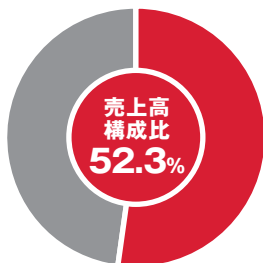
とにより、この厳冬の時代を乗り越えることができると確信しています。さらに、来るべき春に備えて新たな事業の柱を作ることに、知恵を絞り、汗を流してまいります。

株主の皆様には今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



事業別営業概況

猟銃事業



売上高 **4,720**百万円

主力の米国市場は、失業率9%台と厳しい雇用状況が続き、消費者マインドは低下しています。欧州市場でもギリシャに端を発した財政破綻の不安感が拡大したことにより、両市場とも銃の低価格化が一層強まりました。このような状況の中、付加価値の高い上下二連銃の販売数量は減少した一方で、比較的安価なボルトアクションライフル銃の販売数量は増大しました。

その結果、売上高は4,720百万円（前期比8.6%減）、営業損失は71百万円（前期は営業損失177百万円）となりました。

ショットガン



ライフル



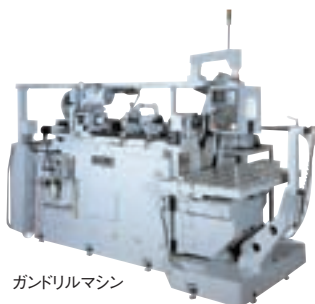
工作機械事業



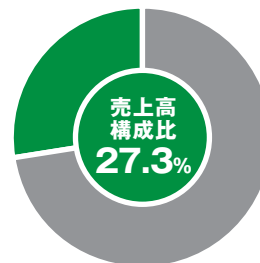
売上高 **1,833**百万円

主要顧客である自動車・金型関連業界の設備投資は、総じて低調に推移しました。主力の機械部門は、徐々に回復が見られたものの売上高は前期を下回りました。ツール部門および加工部門は、顧客の生産状況の回復に伴い前期を上回りました。

その結果、売上高は1,833百万円（前期比7.1%減）、営業利益は211百万円（前期比12.0%増）となりました。なお、売上高にはセグメント間の内部売上高7百万円を含んでいます。



自動車関連事業



売上高 **2,462**百万円

自動車業界は、中国やインドでの販売台数が高成長を維持し、米国も回復基調になってきました。国内では東日本大震災の影響で生産を一時停止せざるを得ない状況でした。徐々に生産は回復したものの、当社製品を搭載した車種の販売台数は減少しました。

その結果、売上高は2,462百万円（前期比27.4%減）、営業利益は21百万円（前期比42.6%減）となりました。

※自動車関連事業は、持分法適用関連会社である（株）ミロクテクノウッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法投資利益の増加を通じて、当社連結業績に反映されます。



※その他事業につきましては、売上高は7百万円、営業損失は26百万円となりました。

TOPICS 1

期待のショットガン新製品 「CITORI 725」が デビュー

「CITORI (シトリ)」は、ミロクがブローニング社に供給する上下二連銃（ショットガン）のブランドです。スポーティング銃ならびにハンティング銃で、さまざまなバリエーションがあり、バラエティーに富んだ製品構成を誇ります。生産・出荷累計は100万丁を超え、ブローニング社を代表する人気商品となっています。今回、徹底した設計見直しを図ったニューモデル「CITORI 725」が誕生。平成24年1月に販売を開始しました。

「CITORI 725」の大きな特長は、新設計のメカニカル・トリガー（引き金）を搭載したこと。従来のモデルは、初弾の反動を利用して次弾のトリガーを引けるようにする構造でした。それに対して「CITORI 725」は、反動を意識することなく、次弾のトリガーを引くことが可能になり、よりスピーディーな連射を実現しています。

また、伝統的な堅牢性を保ちながらも、全体的なスリム化を図りました。新設計の銃身機構による軽量化とあわせて、取り回し性能が高く、手になじみやすく銃との一体感が増すフォルムになっています。

ブローニング社も「CITORI 725」に大きな期待を寄せており、欧米マーケットでの販促キャンペーンに力を入れる方針です。



TOPICS 2

(株)南国ミロクと (株)梶原ミロクを合併

平成23年11月1日、猟銃製造および銃床・木工品製造を手がける(株)南国ミロクが、(株)梶原ミロクを吸収合併しました。これにより、重複する業務を効率化するなど全体最適での役割分担を図ると同時に、新たな事業戦略の策定や企業体質の強化、管理部門の集約などを推進します。今後、(株)梶原ミロクは(株)南国ミロク梶原工場となり、ライフル銃の製造を担います。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結 会計年度末 (平成23年10月31日)	前連結 会計年度末 (平成22年10月31日)
資産の部		
流動資産	6,192,309	7,002,539
固定資産	6,945,490	7,592,253
有形固定資産	3,911,463	4,312,701
無形固定資産	33,721	34,380
投資その他の資産	3,000,304	3,245,171
資産合計	13,137,799	14,594,792
負債の部		
流動負債	2,328,262	4,002,587
固定負債	2,393,536	2,173,798
負債合計	4,721,799	6,176,386
純資産の部		
株主資本	8,276,621	8,239,996
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	519,252	519,252
利益剰余金	6,968,423	6,931,584
自己株式	△74,180	△73,966
その他の包括利益累計額	139,378	175,654
その他有価証券評価差額金	150,993	185,415
為替換算調整勘定	△11,614	△9,760
少数株主持分	—	2,755
純資産合計	8,416,000	8,418,406
負債・純資産合計	13,137,799	14,594,792

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結 会計年度 (自 平成22年11月1日 至 平成23年10月31日)	前連結 会計年度 (自 平成21年11月1日 至 平成22年10月31日)
売上高	9,016,645	10,544,058
売上原価	7,963,796	9,648,666
売上総利益	1,052,849	895,392
販売費及び一般管理費	1,106,208	1,074,839
営業損失	53,358	179,446
営業外収益	274,639	524,462
営業外費用	22,567	37,937
経常利益	198,713	307,078
特別利益	72,437	193,908
特別損失	51,897	10,826
税金等調整前当期純利益	219,252	490,160
法人税等	138,008	257,221
少数株主損益調整前当期純利益	81,243	—
少数株主損失	—	97
当期純利益	81,243	233,036

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当連結 会計年度 (自 平成22年11月1日 至 平成23年10月31日)	前連結 会計年度 (自 平成21年11月1日 至 平成22年10月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	573,400	1,028,178
投資活動による キャッシュ・フロー	318,323	144,766
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,263,985	△564,549
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,884	△4,903
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△374,145	603,492
現金及び現金同等物の 期首残高	2,175,391	1,571,899
現金及び現金同等物の 期末残高	1,801,245	2,175,391

会社概況 (平成23年10月31日現在)

会社概要

社名：株式会社ミロク
Miroku Corporation
所在地：高知県南国市篠原537番地1
設立：1946(昭和21)年7月5日
2003(平成15)年5月1日持株会社化
資本金：863,126千円
従業員数：480名(連結対象子会社含む)

役員

代表取締役社長：弥勒 美彦
常務取締役：近藤 久視
取締役：田中 勝久
取締役：荒井 瑞夫
取締役：チャールズ・グブラモント
取締役：堀川 洋幸
取締役：ジャン・ビエール・フレマック
取締役：楠瀬 正広
常勤監査役：深見 裕夫
監査役：山本 吾一
監査役：中澤 啓
監査役：佐野 靖男

株式情報 (平成23年10月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数..... 50,000,000株
発行済株式総数..... 15,027,209株
株主数..... 1,480名

大株主(上位10名)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
エムエルピーエフエス カस्टディー アカウント	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
ミロク共栄会	692	4.6
ビービーエイチ フォー ファイデリティー ロープライス ストック フアード	678	4.5
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
日油株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0

(注)第1順位のエムエルピーエフエス カस्टディー アカウント(名義人)の持株数として記載した1,474千株は、プロローニング・アームズ・カンパニーが実質株主として所有しております。

株主メモ

事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで
基準日：定時株主総会 10月31日
剰余金の配当 期末 10月31日
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

特別口座管理機関：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先：〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

公告方法：電子公告の方法により行います。
ただし、やむを得ない事由により
電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載します。
電子公告掲載URL
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数：1,000株
証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)
0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



高知県南国市篠原537番地1
TEL:088-863-3310



このレポートは、環境に配慮し、
植物油インクを使用しております。